

国立科学博物館

賛助会費を使った活動(2024年度)

2024年度におきまして、賛助会員の皆様にご支援をいただきました賛助会費により、様々な博物館活動を実施することができました。厚くお礼申し上げます。
ここに深く感謝の意を表しますとともに、活動内容の詳細をご報告させていただきます。

青少年の自然科学等への興味・関心の向上

- 離島にある小中学校での出張授業・野外学習の実施
- 幼稚園・保育園でのオンラインワークショップの実施
- 商業施設等での筑波実験植物園イベントの開催
- バーチャル企画展「高山植物」の開催
- ミニ企画展「小惑星からのサンプルリターン」の開催
- 講演会「文化と自然史のクロスポイントを探る」の開催 等



地域博物館等と連携したイベント

- 能登半島における巡回展
「キモかわすごい！海の骨なしどうぶつの世界」
及び関連イベントの開催 等



標本資料の製作・受入・保存・修復

- 「親と子のたんけんひろば コンパス」内の
標本資料の修復・補修
- 鳥類標本コレクション約3千点の寄贈受入
- 関東大震災の様子を描いた油絵の修復作業
- 各地の人類集団から採取した歯列模型の受入
- 維管束植物おし葉標本コレクション約2万点の寄贈受入 等



青少年の自然科学等への興味・関心の向上



出張授業の様子



野外学習の様子

離島にある小中学校での出張授業・野外学習の実施

理科教育の機会が限られている離島の小中学生を対象とした教育・普及啓発活動の一環として、沖縄県にある渡名喜島で博物館における研究活動の魅力を伝える出張授業と浜辺でのフィールドワークを行いました。本活動により、そこに住む子どもたちが気づいていない島の魅力や研究の面白さを伝えることができました。

幼稚園・保育園でのオンラインワークショップの実施

来館が難しいもしくは遠方の幼稚園・保育園の子どもたちに当館の活動を知ってもらう取組の試行として、都内の複数の園をオンラインでつないでワークショップを実施しました。当館の展示室にある剥製標本を活用しながら、ワークシートを用いて動物それぞれのもよの役割について考えることで、自然科学に興味を持つきっかけとして楽しんでもらうことができました。



オンラインワークショップの様子

商業施設等での筑波実験植物園イベントの開催

植物の不思議や面白さを伝えるため、つくば市内の商業施設等において、児童を主な対象としたイベントを実施しました。イベントの内容はオナモミダーツや実際に植物に触れる体験、トークイベントなどさまざまで、植物について楽しく学んでもらうだけでなく、植物園の魅力や価値をアピールすることができました。



イベントの様子



オナモミダーツ



バーチャル企画展の様子・操作画面

バーチャル企画展「高山植物」の開催

当館で令和6年度に開催した企画展「高山植物～高嶺の花たちの多様性と生命のつながり～」とテーマを共有したバーチャル企画展「高山植物」を製作し、オンライン上で公開しました。バーチャル展示ならではの手法で、通常の展示室では再現困難な臨場感のある登山体験を実現したことで、なかなか登山には出かけられない方々にも高山や高山植物を知ってもらうことができました。

ミニ企画展

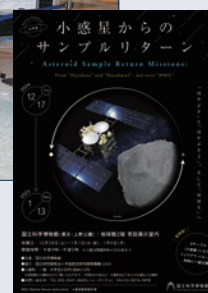
「小惑星からのサンプルリターン」の開催

小惑星探査機「はやぶさ2」が地球に持ち帰った小惑星リュウグウのサンプルなど、合計3つの小惑星のサンプルを世界で初めて同時一般公開するミニ企画展を開催しました。「はやぶさ2」の運用日誌等の関連資料も初めて公開し、当時の壮大な調査の様子や帰還時の緊迫した状況を伝えることで宇宙に関する興味を喚起することができました。



展示の様子

ミニ企画展のチラシ



地域博物館等と連携したイベント

能登半島における巡回展

「キモかわすごい！

海の骨なしどうぶつの世界」

及び関連イベントの開催

令和6年に発生した能登半島地震・能登半島豪雨の被災地への支援のため、石川県七尾市の「のと里山里海ミュージアム」において巡回展を開催し、また開催地にある高等学校と連携した関連イベント等を実施しました。会期中は多くの方にご来館いただき、展示の鑑賞や学習支援の機会を提供することができました。



巡回展のチラシ

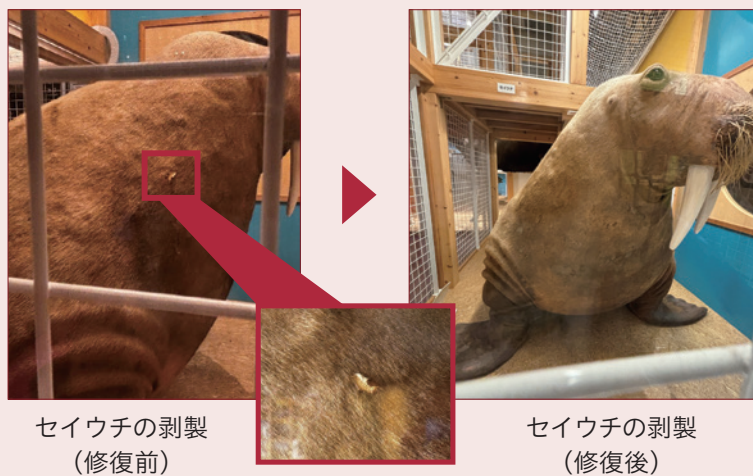


イベントの様子



展示の様子

標本資料の製作・受入・保存・修復



「親と子のたんけんひろば コンパス」内の標本資料の修復・補修

当館地球館3階の「親と子のたんけんひろば コンパス」内の剥製の一部に亀裂や傷のようなものが見受けられ、喫緊の対応が必要であったため、修復・補修を行いました。これにより万全の状態で展示することができました。

鳥類標本コレクション 約3千点の寄贈受入

明治から昭和初期にかけて本州中部山岳地域で複数の標本採集者や研究者などによって採集された約3千点の貴重な鳥類の剥製標本の寄贈を受け入れました。このコレクションは日本の鳥学の黎明期から初期にあたる時期の標本として、当時の鳥類相を復元するうえで重要な価値があります。また、コレクションの中にはライチョウなどの希少種も含まれており、DNAによる分析などのさらなる研究も期待されます。



寄贈受入の様子



鳥類の仮剥製標本



油彩画「食物配給の状況」

修復作業の様子

関東大震災の様子を描いた油絵の修復作業

1923年に発生した関東大震災の被害の状況を描いた当館所蔵の油彩画13枚のうち、「食物配給の状況」の修復と額装を行いました。キャンバス地の汚れを落とし、破れや傷みの修復や絵具の補彩、木枠の新調等を行い、長期の展示や保管に適したミュージアムアクリルと額を装着したことで、展示や学習支援活動にも活用できるようになりました。